

農作物の生育状況、今後の見通しと対策(8月)

鳥取県農業気象協議会
(鳥取県農業振興局経営支援課 農業普及推進室 まとめ)
令和7年8月15日 現在

作物名		生育状況	今後の見通しと対策
作物	水稻	- 県内全域の用水量が少ない地域で水不足の影響が見られたが、8月上中旬のまとまった降雨により、渇水による急性的な症状は解消される見込み。 - 飽水管理が可能であった現地は場の生育は概ね順調だが、出穂が早かったひとめぼれや極早生熟期の飼料米及び多収品種で渇水の影響があった可能性がある。 - 斑点米カメムシの発生が多い他、イネカメムシの発生が散見される。また、ごま葉枯病の発生も散見されるが、その他では目立った病害虫の発生は見られていない。 - 各品種とも出穂が2日程度早まっている状況だが、今後も高温が予想されており、出穂期以降の高夜温の影響で品質不良が懸念される。 〔農業試験場作況田〕 ＜早期(5/12移植)＞ 【ひとめぼれ】 ・出穂期は7/26(平年+3日)。葉齢は平年並で、茎数はやや多いが、葉色は平年並。 【コシヒカリ】 ・出穂期は7/25(平年-1日)。葉齢は平年並で、茎数は多く、葉色はやや濃い。 ＜普通期(5/26移植)＞ 【コシヒカリ】 ・幼穂形成期は7/11(平年-2日)。葉齢は平年並で、茎数はやや多く、葉色は濃い。 【星空舞】 ・幼穂形成期は7/18(平年-1日)。葉齢は平年並で、茎数は多く、葉色は濃い。 【きぬむすめ】 ・幼形期は7/24(平年-1日)。葉齢はやや遅れているが、茎数は多く、葉色は濃い。	- 用水路の水量が少なく、従来の入水・湛水が困難な場合は、可能な限り排水路のポンプアップ等により、用水を有効に活用する他、灌水や節水栽培に取組み、開花時期等の優先順位の高いほ場から、足跡水を目安に配水するように努める。 - 穂いもちは発生後の防除が困難であるため穂ばらみ期及び穂揃い期の2回防除を徹底する。 - カメムシ防除は穂揃い期～乳熟期に行うとともに、斑点米カメムシ類が要防除水準を越える場合には直ちに防除を行う。 - 早期に落水すると玄米の品質が低下することから、収穫5日前までは完全落水しないように間断かんがいを励行する。 - ひとめぼれの収穫適期は、前年より約2日程度早くなっており、コシヒカリは前年並～2日程度早い予想となっている。 - 近日の気象経過及び1か月予報を基に、本年は以下の出穂後積算気温を目安に適期収穫を励行する。 ひとめぼれ：910～1,110℃(青刈率14～21%) コシヒカリ：890～1,140℃(青刈率10～25%) 星空舞：標高300m未満1,000～1,260℃(青刈率0～10%) 標高300m以上920～1,170℃(青刈率0～12%) きぬむすめ：890～1,100℃(青刈率6～29%)
	大豆	6月播種のほ場では、出芽・苗立ちが順調であったが、開花期を迎えて渇水の影響を受けた。 7月播種のほ場では、一部干ばつによる苗立ち不良や初期生育の停滞も見られ、生育量がやや小さい。 8月上中旬のまとまった降雨により、渇水による急性的な症状は解消される見込みだが、開花期間中の水分ストレスにより着莢数の減少が懸念される。 - 梅雨明けが早かったため、初期生育が順調だった早播ほ場では中耕培土作業が順調に進んだが、干ばつ等の水分ストレスによって生育量が小さいほ場で、雑草が繁茂し始めている。 - 梅雨明以降、異常高温と無降雨が継続し、著しい干ばつによって、ハダニが発生するほ場や、日中に葉が裏返る症状のほ場が見られる。また、著しい乾燥の場合は枯死する事例もあった。 - 一部ほ場でハスモンヨトウによる白変葉やウワバ類の食害が見られるが、現時点で大きな被害には至っていない。	- 大雨による湛水も落英を助長する。あらかじめ排水溝の手直しを行い、速やかな排水に努める。 - 紫斑病、カメムシ等の防除を適期に行う。また、カメムシ類、他の害虫等の発生が多い場合には追加防除を行う。 - 着莢後に、台風等による風雨の影響で物理的な損傷があった場合は、登熟過程において腐敗粒が増加することがあるため、殺菌剤による追加防除を検討する。
果樹	ナシ	8月12日の果実発育調査結果は次のとおり。 「二十世紀」：6園の横径平均が78.0mmであり、前年比96%(4日遅い)・平年比96%(5日遅い) 「新甘泉」：3園の横径平均が87.0mmであり、前年比92%(13日遅い)・平年比93%(8日遅い) ※肥大の遅れであり収穫時期の遅れではない - 梅雨明けが早く、梅雨明け以降に高温干ばつが続いたため、果実肥大が鈍った。 - 高温干ばつはハダニ類の好適条件であり、ハダニが多発して葉焼けを起こしている園がある。	- 高温傾向であり、水梨、過熟等、障害果が発生する可能性が高まるので、果実や樹の様子を観察し、収穫時期が遅れないよう注意する。 - 高温干ばつが続く場合は、かん水を適宜行う。 - 台風が襲来する場合は、果樹棚の補強や結果枝の棚線への結び直し等の事前対策を実施する。 - 収穫期に入るので、薬剤散布をする際は農業期の収穫前日数を遵守する。 - ハダニ類の発生状況を確認し、農業の安全使用基準を遵守して防除する。 (注)検査標準査定会:「新甘泉」は8月18日(月)、「二十世紀」は8月22日(金)に開催予定。
	カキ	8月12日の果実発育調査結果は次のとおり。 「輝太郎」：3園の長径平均が66.8mmであり、前年比100%(1日遅い)・平年比100%(平年並) 「西条」：3園の長径平均が45.5mmであり、前年比96%(5日遅い)・平年比95%(6日遅い) 「富有」：3園の長径平均が64.2mmであり、前年比99%(2日遅い)・平年比100%(1日遅い) - 梅雨明け以降に猛暑が続き、直射日光が当たった果実が日焼けしている(厳しい日焼けは収穫時に黒変する)。 - 昨年に大量発生したカメムシは現時点は少ない。	- 高温干ばつが続く場合には、かん水を適宜行う。 - カメムシの園内への飛来状況を確認し、防除を徹底する。炭疽病の発生園では防除を行うとともに罹病した果実、枝等は園外へ持ち出して処分する。 - 草刈りを行って園内の通気を良くし、病気の発生や果実の汚れを抑制する。 - 最高気温が30℃を下回る頃からマルチを敷設して着色向上を図る。 - 台風が襲来する場合には突き上げ柱の設置や棚線への結び直し等の事前対策を実施する。「輝太郎」は摘葉を行い葉スレによる汚損果を軽減する。
	ブドウ	8月10日の園芸試験場砂丘地農業研究センターの果実発育調査結果は次のとおり。 「シャインマスカット」：横径が24.3mmであり、前年比100% - 無加温ハウスの「巨峰」、「ピオーネ」の出荷がほぼ収量した。 - 降雪に伴うビニール被覆の遅れ等から、1週間から10日程度遅れて生育してきたが、梅雨明け頃から成熟が進み、例年並の出荷時期であった。	これから収穫となる「シャインマスカット」では、日焼け・縮果症の発生を抑えるため、ハウス内の温度を下げるよう努める。
野菜	白ねぎ	【春ねぎ】 ・育苗、定植～生育中。 - 一部、発芽後の高温、過乾燥や過湿により立枯症状の発生がみられ、蒔き直しが行われている。 - 定植後にかん水を行わなかったほ場では、株の消失が見られる。(大半のほ場ではかん水が行われている。) 【夏ねぎ】 ・収穫出荷中であるが、出荷物はL(階級)中心で、例年より細物傾向。 7月中旬の降雨後、白絹病の発生が見られ、7月下旬からは軟腐病の発生もみられるようになった。なお、葉トロケ症の発生は少ない。 - 高温乾燥の影響で、アザミウマの被害が多い。 【秋冬ねぎ】 ・高温、少雨により、外葉や葉先枯れの発生ほ場が多い。例年より生育停滞が早く始まっているが、地下水位の高いほ場や散水を行っているほ場では生育停滞は遅い。 - 萎ちよう病、軟腐病の発生がみられる。また、一部でアザミウマの発生の多いほ場が見られる。	【共通】 ・アザミウマ、ハモグリバエ、シロイチモジトウ、白絹病、軟腐病の防除を徹底する。 - 台風、大雨に備えて明渠等の排水路の点検と排水対策を徹底する。 【春ねぎ】 ・定植前の黒腐菌核病防除を徹底する。 - 干ばつが続く状況であれば、定植後かん水を確実に行う。 【夏ねぎ】 ・生育停滞や肥効切れによる様の緩みが大きく、降雨により細菌性の病害が増える可能性が高いため、降雨の前後に防除を行う。 - 葉トロケ対策として収穫調整後の早期出荷を行う。 【夏ねぎ・秋冬ねぎ】 ・高温、少雨で生育停滞したねぎは亜リン酸資材の散布による草勢回復をはかる。 - 長期干ばつ後の大雨により軟腐病が多発するため、降雨前の軟腐病防除の徹底を呼び掛ける。
	ブロッコリー	8月1日から定植が始まっている。 - 定植後の生育は、灌水の実施や8月5日以降の降雨により高温・少雨の影響はみられない。	- 高温期の育苗中は、水管理を適切に行う。 - 定植作業は順調に進む見込み。 - 黒すす病や、ハイマダラノメイガ、ヨトウムシ等に対しては、早期の防除を行う。 - 台風後は殺菌剤による病害防除と生育の回復のため必要に応じて液肥の散布を行う。
	ミニトマト	- 出荷は、7月中旬頃から始まっている。 - 青枯病の発生が、昨年よりも2～3週間程度早く見られる。 - 高温、乾燥の影響でチョウ目害虫やトマトサビダニの発生が昨年よりもやや多く散見される。	- 出荷量は、平年どおり8月下旬から徐々に増える見込み。 - 高温による品質低下が懸念されるため、適切な茎葉管理とかん水を行う。 - チョウ目害虫、トマトサビダニの防除を徹底する。 - 降雨後は、すすかび病、はかび病等の予防散布を行う。
	トマト(夏秋)	【夏秋】 ・4～6段目の収穫中で、8～10段目が開花中。 - 出荷量は昨年比約113%と順調であるが、単価は昨年同様やや低めの状況。 - 暑さの影響で、裂果の発生が多い。 - 病害虫の発生はそれほど問題になっていないが、一部で青枯病、かいよう病、すすかび病、はかび病、アザミウマ類、オオタバコガ、コナジラミが発生している。	- 裂果対策としては、リーフシェード(脇芽の葉で遮光すること)、フルメット液剤散布を実施。 - 病害虫の発生しているほ場では、早期防除を実施すること。 - 今後の豪雨や台風に備え、排水対策の指導と降雨による病害の発生について注意喚起。
	ながいも	- 長芋・ねばりっこ共に高温・少雨の影響で、地上部の生育が小振りで葉も小さい。また、葉焼けも発生している。 - ダニ類等の発生が見られるが、炭疽病の発生は極少で、全体として病害虫の被害は軽微。 7/31試験掘り結果 【長芋】 ・平年よりも芋重が大きく、芋長も長いが、芋幅は細い。 重量417.8g(平年比133%、前年比94%)、芋長48.0cm(平年比115%、前年比103%) 【ねばりっこ】 ・平年よりも芋重は大きいが、芋長は短い。 重量341.2g(平年比107%、前年比115%)、芋長45.2cm(平年比94%、前年比95%)	- これまでの高温・少雨の影響により芋肥大が小さいことが予測されるため、健全な葉の維持に努め病害虫の防除を徹底することを呼び掛ける。 - コガ類やダニ類の多発生が懸念されるため防除を徹底する。 - 干ばつにより植物体が弱っていると考えられるため、降雨後の炭疽病等の発生に十分注意し予防防除に努める。
	アスパラガス	- 夏芽出荷中。 - 猛暑の影響により、品質は低下している。(出荷量:7/25時点で出荷量85%) - 一部ほ場でアザミウマの発生の多い圃場がある。	高温により株の生育が弱まり、病害が発生しやすい状況になっているため、予防防除を行う。
花き	シンテッポウユリ	【盆作型】 ＜東部地区＞ ・高温の影響で生育がやや早まり、7月末頃が出荷の中心となった(平年8月上旬)。 - 少雨の影響もあり、草丈が低いため地際ギリギリで収穫。葉も小さい傾向となった。 ＜中部地区＞ ・高温少雨であったが適宜かん水を行い、7月下旬から8月中旬にかけて収穫した(平年並)。 【抑制ハウス作型】＜中部地区のみ＞ ・本葉8～9枚程度。早期抽台が僅かに発生しているが、株張りが旺盛で概ね順調な生育。 - 定植直後に葉焼け症状が生じたが、生育には影響無い様子。	【抑制ハウス作型】 ・晴天が続く場合は寒冷紗を2重掛けを継続し、ハウス内の風通しが悪くならないようハウスサイドや入口を開放する。 7月下旬までに発生した細い早期抽台株は摘心を行い、脇芽の生育を促す。
	りんどう	春先の萌芽が遅れた影響からか盆直前の集中出荷となった。(近年、盆前にはほぼ出荷終了)	8月末で出荷(選花)が終了予定。
	ストック	＜中部地区＞ ・スタンダード系は7月25日、スプレー系は8月1日から播種開始。 - 概ね順調に発芽しているが、高温のため一部で発芽が遅れたり、揃いが悪いほ場が見られる。 - 順次、八重鑑別が行われている。 ＜西部地区＞ ・中山間地では、例年より5日遅い7月20日から播種開始。 - 平年の7月15日播種では9月末収穫となるが、近年の秋期高温傾向により花傷みが発生しやすく、収穫時期を遅らせるため。 - 大山地区では7月20日から播種開始。適切に灌水が実施されており、発芽は良好。	＜共通＞ ・キスジノミハムシ、ハイマダラノメイガ等害虫の発生がみられるため、発芽したら速やかに粒剤を散布するなど防除を徹底する。 - 今後も高温が続くため、温度管理と水分管理に十分注意する。 - 中山間地以外は9月中旬頃まで播種が続く。
	アスター	- 播種は、6月21日から開始し、8月上旬で概ね終了。 - 発芽は順調。一部の生産者で、寒冷紗を外す時期が遅れ、胚軸が伸びて苗の倒れが生じた。	- 温度を確認しつつ発芽が揃い次第、寒冷紗を外すタイミングが遅れないように留意する。 - 電照後の害虫防除を徹底する(アザミウマ、ダニ類等)。
飼料	飼料用トウモロコシ	7月下旬から、各コントラクターを中心に収穫調整作業が始まっている。 - 子実が充実しており、生育が良好なほ場が多い。 - 一方、播種時期が6月頃のほ場では、渇水による生育不良が発生している。	8月以降は、県内全域で収穫が行われる予定。 - 遅植の圃場は渇水により出穂前後で葉が巻いている圃場もあり、子実の生育に悪影響が予想される。

【農作業安全について】
・八頭町で乗用草刈り機の道路からの転落による死亡事故が発生 ⇒ 農作業死亡事故警報期間:8月20日～9月2日(啓発活動期間)
・秋の農作業安全運動期間:9月1日～10月31日 * 警報期間と重なるため、啓発活動期間は9月3日～10月31日